

抱え上げない介護を19年！

～取り組みから気づいたこと～



2024.08.30

社会福祉法人 飯塚市社会福祉協議会
特別養護老人ホーム 筑穂桜の園

(左ノボキノらのその)

抱え上げない介護の取り組みを振り返って ～開設時から福祉用具を整備 その1～

平成17年度 施設開設

施設設立準備段階から、「最新の福祉用具の導入」を決定

5月 浴室リフト
1台 設置
天井走行型



リフト・4モータベッド・モジュール車いす・スライディングボード……

福岡県立大学福祉用具研究会に入会し、福祉用具の使い方研修会に参加。リフトやボード、シートの使い方等を受講。少しずつ職場に広めた。

平成24年度

5月 浴室リフト 1台 追加

天井走行型

ご利用者の重度化に対応するため増設



平成25年度

4月 施設内で研修本格的開始
開設時から揃えてきたボード・グロブ・シートを使い始める

浴室設置型

抱え上げない介護の取組みを振り返って

～開設時から福祉用具を整備 **その2**～

平成**27**年度

6月 **ノーリフティングケア**への取組み開始

「**介護は抱えることが仕事でしょう!**」と言われた一言に涙を飲んだことも…
理解してもらうためには
やらなくては…

ユニットケア委員会で「抱え上げない介護」について事例検討を行いながら実践。
リフト使い方研修に参加



1台目の床走行リフトの導入

床から吊り上げられるタイプ

令和**元**年度

4月 介護の **楽** を知る

一人のご入居者への使用が成功すると次のご入居者を選択することも直ぐに決定し、車いす⇄ベッド移乗等がとても楽に行えるようになった



令和元年 2台目リフトを導入

抱え上げない介護の取組みを振り返って

～開設時から福祉用具を整備 **その3**～

令和**2**年度

1台目のスタンディングリフトの導入

念願のスタンディングリフト第1号

4月 「**下手でもいい、とにかく使ってみよう!**」の精神で。

- ・デモ機を借りて使い比べ (操作性,メンテナンス性,価格など)
- ・ご利用者のアセスメント
- ・職員は不安を抱えながらも興味津々



令和**3**年度

いよいよ独自で

5月 「**ノーリフティングケア委員会**」の立ち上げ

2台目のスタンディングリフト

- ・動画配信 内部研修 事例検討
- ・**スライディングボード**や**シート**を積極的に使用(抱え上げない)
- ・腰痛愁訴者が減少傾向
- ・所外研修会に積極的参加

抱え上げない介護の取組みを振り返って ～開設時から福祉用具を整備 その4～

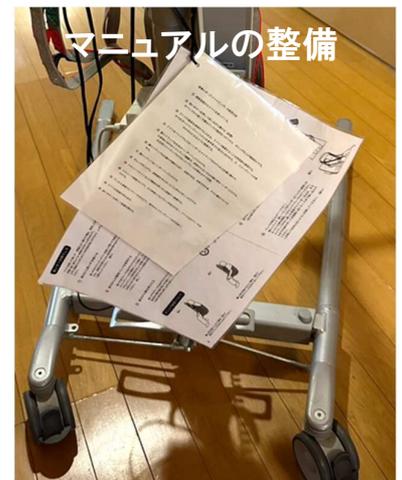
令和4年度

4月

「使い慣れ」で決めた3台目

- ・3ユニットに各1台ずつのスタンディングリフトを配置
- ・「使い慣れ」「メンテナンス性」を考慮して同一機種を選定。
- ・願いかなって、「さあー、どんどん使っていくぞおー！」

下手でもいいので、まずはやってみること。
でも、ご利用者様はきつそうかな？
安楽に使用してもらう方法を模索中！



がむしゃらな自己流の腰痛対策ケアに持続性はあるか？

令和5年度

見よう見まねの独学でも腰痛解消は進んでいたが、これでいいのか？ 維持・継続のためのマネジメントが不安に！

原点に戻ってゼロからの学びを決意。

- 6 正しいノーリフティングケアを学ぶために 普及促進事業へ申し込みを行う。



頑張ろう！
おお～



施設長がユニット会議でモデル事業についての説明を行う。

技術の習得

～基本動作から学び直し～

(独学との違いに 戸惑いと気付き)



戸惑い

- ①研修のマットより柔らかいマット
- ②手技が異なるボディメカニクスとノーリフティングの差
- ③細かな技術指導の理解が難しい
- ④自己流が定着してしまった。
- ⑤研修で習った実技を職場の皆に教えることが難しい。



気付き

- ①誤った手技の**危険性の再認識**
- ②自分たちが楽になっているがご利用者様は安楽を感じているか。

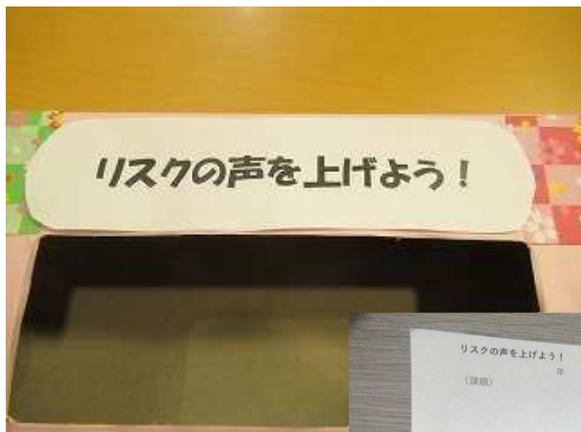
みんな必死に学びました！

マネジメント

取り組み前と後の出来ている事 比較

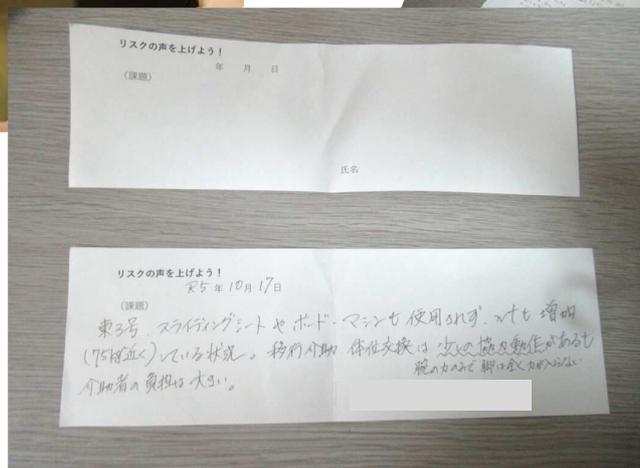
	取り組みを始める前 (独自でやっていた頃)	取り組みを始めた後 (現在)
①委員会	ノーリフティングケア委員会	ノーリフティングケア委員会
②リスクマネジメント	ヒヤリハット委員会 ⇒ リスクマネジメント委員会へ移行	リスクマネジメント委員会 「 リスクの声 」箱の設置
③健康管理	就業前体操	就業前体操 腰痛調査実施
④個別アセスメント	PDCAサイクル 用いてない	PDCAサイクル 途中 優先順位
⑤人材育成 技術教育	独自で研修 動画を所内配信	基本動作80% 福祉用具使い方途中
⑥環境・福祉用具	福祉用具 在庫 管理 活用マニュアル一部作成	福祉用具の 保守 管理へ拡大 活用マニュアル 見直し

リスクマネジメント ヒヤリハット 課題の抽出



投函箱

書式にこだわらない自由記載で



リスクマネジメント
委員会で審議
■開催:毎月
緊急時は随時

1回目は30件のリスクの抽出
委員会で優先順位をつけ、その中でも、**できることから取り組み中**

福祉用具を整理整頓 ~イラスト化(ピクトグラム)~



小物用具のピクトグラムは自施設の用具に合わせて内作すれば、皆が分かり易い。
(車いす関連のピクトグラムは、たくさん提案されている。)



ボード

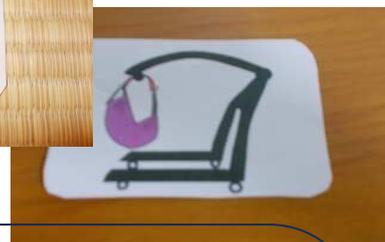
グローブ



シート



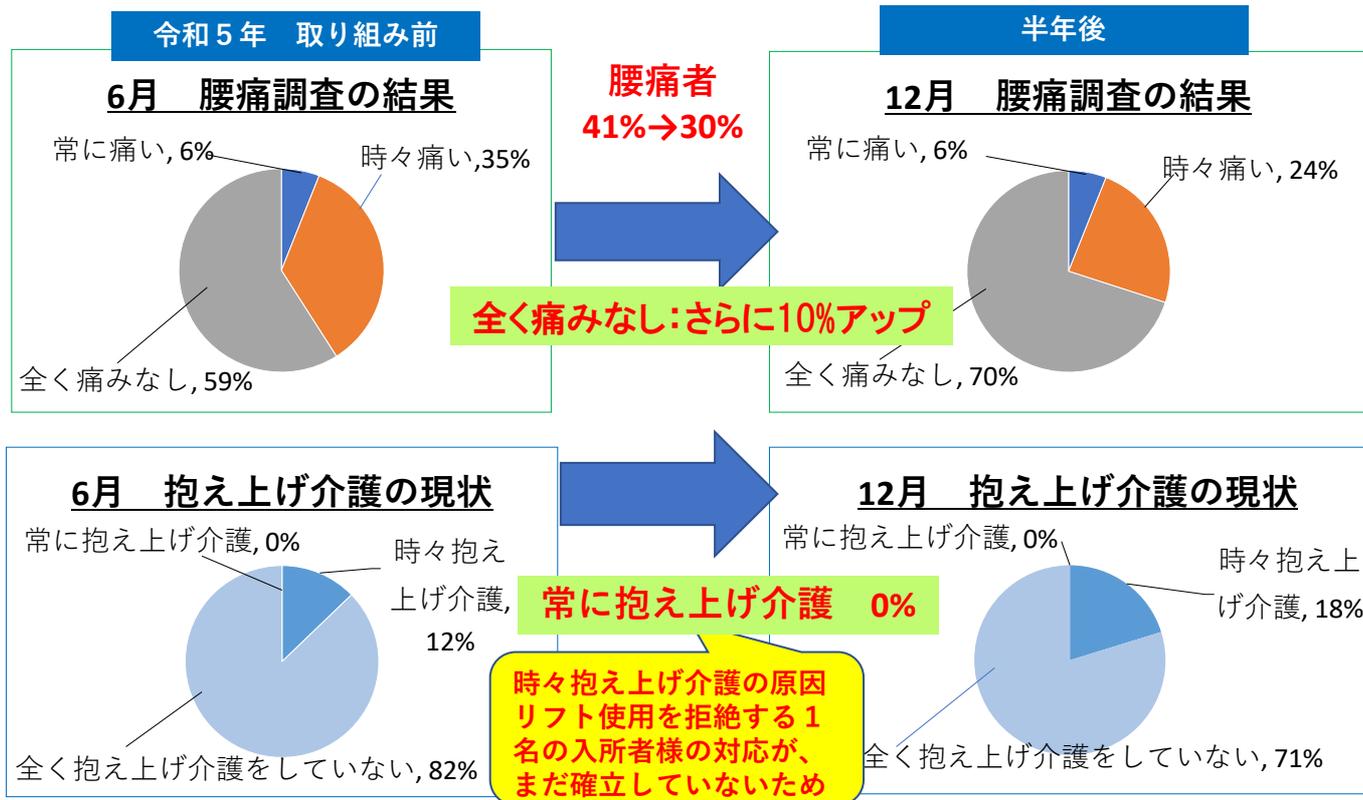
リフト



お部屋の入口に判りやすく表示。
(入室時に必要な用具を確認)

令和5年度 腰痛調査及び抱え上げ介護の実情

当施設は平成17年開設。当初から少しずつ福祉用具の整備を図ってきた。特に、平成25年度からユニット会議や全体会議の中で本格的に福祉用具の研修に取り組み実践してきた結果が、今回のアンケートの結果に反映されていると実感！



令和6年度 取り組み開始

リフトが嫌なら スタンディングリフト で

- ①「吊られる」ことを拒むご利用者様を、スタンディングリフトなら介助できるか
 - ②まずは、安全に移動ができることを丁寧に説明。
 - ③「お試しということならば！」と、協力を得ることができた。
- 互いの信頼関係の下に、承諾に至った。



リフト拒絶者の方が快く協力！

・3年程前に病気で下半身麻痺なり、それ以降、着座できずトイレ使用を断念。

・今回の、スタンディングリフトでのチャレンジで数年ぶりに便座に座れた。
・感動のトイレ着座がきっかけで、スタンディングリフトの活用幅が広がった。
(例: 入浴時の更衣介助・シャワーイスへの移乗など)

・これは介助の大きな前進となった。

最後に・・・

これまでの取り組み

- ① 開設当初からの支援者より「ノーリフティングケア普及促進事業への参加」の声掛けがあったが、業務多忙で参加に踏み切れず。
- ② 当施設では、福祉用具を多用して抱え上げない介護を実践しており、腰痛者も殆どいないので必要ないだろうと考えていた。
- ③ しかし、これまでは持続性の低い自己流の取り組みであり、この機会に「基礎からの学び直しをすべき」と考え、参加に踏み切った。
- ④ その結果、技術面については、それまでの研修会等で学んだ技術とは、大きく異なり戸惑いを感じ、改めて学び直しの必要性を痛感した。
- ⑤ マネジメントの体制作りは順調には進んでいない。

今後の取り組み

- ① 自己流介護技術の修正・強化
- ② 当施設ができていないマネジメントの確立